

(別紙2)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 25年 8月 2日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4091500431		
法人名	社会福祉法人それいゆ		
事業所名	シャルールコパン		
所在地	〒836-0007福岡県大牟田市城町1丁目7番2		
自己評価作成日	平成25年6月17日	評価結果確定日	平成25年10月4日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaisokensaku.jp/40/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyosyoCd=4091500431-00&PrefCd=40&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人医療・福祉ネットワークせいわ
所在地	〒831-0005福岡県大川市向島602番地1階5号室
訪問調査日	平成25年7月2日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>平成24年8月に小規模デイサービスと介護予防拠点及び緊急時の宿泊施設と併設して、1ユニットのグループホームを開設しました。法人の理念である「私たちはみな様の 自由な暮らし、願いや想い、人との絆 そして自分らしさを大切にします」を基盤に、「身体拘束をしない」「月1回以上の楽しみ事」「自分の思いを話せる本人会議の開催」「食事の楽しみ」「ご家族や地域の方々との繋がり」「最期まで人としての役割を持つ」といった6つのマニフェストを掲げ実践しています。また、併設している事業や協力医療機関、法人の多様性を活かして、人生の最期を楽しみ、そして安心して暮らしていただけるようシャルールコパンの意味である“あたたかみのある仲間”になって支援します。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>閑静な住宅街の中の白い洋風の建物の2階にシャルールコパンがあります。ベランダには、「こいのぼり」や「てるてる坊主」など季節感あふれる飾りつけを工夫されており、地域の人々からも親しみを覚えられている様子がうかがえます。開設して1年といった短い期間ですが、法人理念の1つ“自分の思いを話せる本人会議の開催”を「だんごの会」と名付けて週1回開催されており、自然な会話の中から利用者の意向をくみ取り実現化につなげる取り組みが積み重ねられています。また、同一建物の1階にある地域交流プラザやデイサービスとの相互の協力体制も構築されており、芝生スペースを活用して地域の人々と一緒にグラウンドゴルフを楽しむなどの積極的な交流により、地域とのつながりを強められています。</p>
--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念に基づきサービスを遂行しており、毎日理念を唱和して共有し、普段のケアで迷った場合の判断基準としている。新人研修で理念について考える単元を持ち、全ての職員が意味を理解して実践に繋げている。	法人の理念を基盤に、ホームのマニフェストが掲げられ、全職員に浸透しています。本人の立場で考え、その人らしい自由な暮らしが実現出来るように、要望等にも積極的に対応されています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の催し物や学校行事に参加する他、事業所で流しそうめんやバーベキュー大会を開催し、地域の方を呼びかけ交流を図り、又近隣のごみ拾いを兼ねた散歩や買い物等、地域の中へ出る機会に努めている。近所の方より花や菓子を頂いたり、お彼岸にはおはぎをお裾分けする等、相互の交流がある。	開設当初から積極的に地域との交流に努められ、ホームから地域へ出向く、また招く機会を多く設けられており、今後も継続的に交流が図れるように考えられています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通して日常のケアを報告したり、福祉実習や地域の子供達の訪問を受け入れ、直接接することで認知症の理解に繋がる場としている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入退居や事故の状況の他、行事や日常の様子を画像を使ってわかりやすく報告している。防災訓練の参加協力や外出先のアドバイス、庭の活用としてグランドゴルフ大会の話がすすんでいる等サービス向上に繋がっている。	2ヶ月に1回定期的に開催されています。わかりやすい報告の仕方(画像等)の工夫がなされ、積極的な意見交換の場になっており、今後の取り組みを方向づける場になっています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の構成員として2ヶ月に1回参加して頂き、現状報告を行い意見や提案を頂いている。あんしん介護相談員や見学も受け入れ、協力を得ている。バーベキュー大会にも参加して頂き、相談しやすい関係である。	月1回のあんしん介護相談員や口腔指導等の受け入れがあり、日頃から市の担当者と連絡を密に取りながら、意見交換や相談がしやすい関係が構築されています。	

6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>法人として委員会を設置し抑制廃止に取り組んでおり、事例検討など常に意識を保つように取り組んでいる。</p> <p>日常のケアの中でも言葉も含めた身体拘束として、職員間で互いに気づき言い合える関係に努めている。</p>	<p>日常の中で、言葉遣いや椅子の位置などの細かい部分について職員間で話し合い、身体拘束をしないケアに取り組まれています。法人内でも積極的に勉強会が行われ、全職員に浸透しています。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>研修計画に組み込み学ぶ機会を作っており、虐待のニュースを取り上げ職員間の話題にし、自分達も無意識の内に言葉や放置も含め虐待に当たる言動がないか振り返っている。</p> <p>入浴時等身体に不審な外傷がないか観察し、虐待を見逃ごさないよう努めている。</p>		
8	6	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>研修計画に組み込み学ぶ機会を作っている。実際の事例はないが、暮らしの中で当たり前の権利が妨げられないように努めている。</p> <p>パンフレット等の資料を備え、誰でも閲覧できるようにしている。</p>	<p>成年後見人制度等の活用事例はないのですが、その人らしい暮らしが妨げられないように、権利擁護に関する勉強会が計画され、パンフレットなどを用いた知識向上にも取り組まれています。</p>	
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入居前の面談、契約等の機会には、一方的な説明でなく、不安や疑問を尋ね、事例などをあげてわかりやすい説明に努めている。</p>		
10	7	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>ご利用者の意見や要望を引き出す会（だんごの会）を週1回設け、日帰り旅行やテーブル配置等事業運営に反映している。</p> <p>家族会では一方的でなく家族同士で意見を出し合う時間を設け、又玄関に意見箱を設置して意見しやすいよう努めている。</p>	<p>「みんなでまぜくりあって仲良くなりましょう」という趣旨の「だんごの会」は、利用者の意見・要望を聴く機会になっています。家族の面会時にも、状況を伝えたり意見を頂いたり話しやすい関係作りが行われています。</p>	
11	8	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>ケアの方法や1日の組み立て、業務全般に至るまで、毎日の申し送りや毎月のスタッフ会議で意見や提案を基に皆で話し合い、実践として反映している。決まり事を押し付けるのではなく、皆で意見し根拠を理解して実行できるように努めている。</p>	<p>「みんなで利用者を支えあっていく」と言う気持ちのもと、意見や要望が積極的に出されており、必要に応じて会議などの機会に検討され実践につなげられています。</p>	

12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>介護職員の社会的評価を上げるため、給与水準を定期的に見直し、研修や資格取得の為に仕組みがあり、昨年度は2名が介護福祉士に合格した。又法人独自で有給休暇をとりやすい制度(記念日休暇)や交流を深める為のコミュニケーション費を備えている。</p>		
13	9	<p>○人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。</p> <p>また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮していき生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している</p>	<p>労働基準監督署の助言に則り対応し、定年を迎えた職員も仕事が続けられるように助言している。</p> <p>又、子育て中の職員も夜勤の調整をする等の支援をし、会議等も子供連れでの出席も積極的に行っている。</p>	<p>幅広い年齢層の職員が配置されており、世代ごとの特性や経験、能力などが考慮されています。</p> <p>職員がやりがいを持って働くことができる環境を整えることに注力されており、職員間の協力体制が構築できるように努められています。</p>	
14	10	<p>○人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる</p>	<p>ご利用者に対し、背景や身体特徴等による差別的な態度が無意識の内にもないか、という視点を持ち、気づきがあれば職員全体で話し合う姿勢である。</p>	<p>言葉遣いや声の大きさ・威圧的態度など、常に自己を振り返り、お互いに気づきがあれば注意し合う関係が築かれています。</p>	
15		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>職員個々に合わせ適当な研修受講を勧めると共に、管理者や職員から要望があった場合も、その機会を確保している。研修受講した者がそれ以外の職員へ伝達研修を行い、又新人職員には多種の単元からなる2日間の研修を行う等、職員教育に取り組んでいる。</p>		
16		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>実践や研究を発表する場を持つことや、同業者から評価される機会や見学を積極的に受け入れることで、その交流を図っている。</p> <p>法人内の別事業所においても委員会やイベント等を通して、交流が盛んである。</p>		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入居前に自宅やサービス利用先を訪問したり、ホームに来ていただいて面談し、話をする機会を設けている。入居に不安のある方には事前に複数回面会し、少しでも安心できるよう取り組んでいる。</p>		

18	<p>○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>入居前に訪問や電話、ホームに来ていただく等して面談し、家具の選択や医療的な事柄等、ご家族の入居にあたっての心配事や不安がないようにしている。</p>		
19	<p>○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>入居申し込みの段階から、入居が最善の方法かを一緒に考え、実際入居可能となった時点でも、すぐに入居する必要があるのか、現在のサービス継続や他のサービスを利用することで在宅生活が維持できないか見極めるよう努めている。</p>		
20	<p>○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>共通の事柄を通して共感したり、調理や花・野菜作り等生活の様々な場面での教えや悩み相談等、互いに助け合う関係構築に努めている。</p>		
21	<p>○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>受診や外出の付き添い、行事の準備等、ご家族が支援する側としての立場を保てるよう働きかけ、普段から情報提供だけでなく交流を持つことで良好な関係に努めている。</p>		
22	<p>11 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>ご家族はもちろん、友人や知人の訪問も歓迎し、居室に限らず共有空間でもゆっくり過ごして頂けるよう、お茶を出したり一緒に談笑して、また来たいと感じて頂けるよう努めている。又、自宅等に定期的に行けるよう、ご家族の支援も得ながら対応している。</p>	<p>“ホームはいつでもウエルカム”の気持ちで、来訪者に対応されています。定期的に家族と外出される人、日常的に近所を散策される人など一人ひとりの生活ペースに合わせた支援に努められています。</p>	
23	<p>○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>一方的に攻撃を受ける関係もあるが、職員が間を取り持ったり、席の配置を工夫するなど配慮している。「だんごの会」も互いに意見し分かり合えることに貢献している。良い関係の維持に対しても外出を共にしたり、ゆっくり話せる時間を大切にしている。</p>		

24	<p>○関係を断ち切らない取組み</p> <p>サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>退居される時は、今後も気軽に相談して頂くよう声かけし、転居や入院先へ面会に行き、退院の目度があたればその後の相談にのる等、契約が終了してもフォローできるように努めている。</p>		
<p>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</p>				
25	<p>12 ○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。</p>	<p>日常会話や週1回のだんごの会、介護計画の更新時に希望や意見を聴き出している。意見を表しにくい方は普段の言葉や表情から汲み取り、本人の立場で検討している。</p>	<p>センター方式が採用され、本人の要望や家族の意向などが把握されています。意思表示が困難な方でも、さりげない仕草も見落とさないように気をつけながら介護計画につなげられています。</p>	
26	<p>○これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>入居時にセンター方式を用いて情報を得る他、日々本人やご家族から得られる内容はシートや職員同士で伝達し把握に努めている。</p>		
27	<p>○暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている</p>	<p>身体状況だけでなく、新たな力の気づきや不快な対象など細やかな情報を記録や口頭で申し送り、職員が情報を共有し、生活として連続したケアが行えるように努めている。</p>		
28	<p>13 ○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>毎日の暮らしから課題を見出し、本人や家族の意向を基に、担当者会議を通して一緒に介護計画を作成している。定期的にモニタリングを行い、サービス内容を適宜見直している。</p>	<p>全職員参加のモニタリングにより見直しが行われ、家族へ報告されています。日常のケアの中での利用者の表情からも課題を抽出し、介護計画の変更など実践につなげられています。</p>	
29	<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>日々の様子や気づき等を細やかに記録し、継続した情報として定期的に振り返りながらケアの見直しを行っている。日々の暮らしが一目でわかるように、特記事項の統一等、記録自体の見直しもを行っている。</p>		

30	<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>入院中に看取りと診断された方を受け入れ、医療機関と連携し、個人的な外出支援も行っている。看取りに関わらずご家族の宿泊も受け入れ態勢である。</p>		
31	<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>併設の小規模デイサービスで発足したお誂いの会や他事業所のイベントに参加し、楽しんで頂いている。</p> <p>月1回程図書館へ行き紙芝居を借りたり、お正月には最寄の神社へお参りに行く等、生活圏を限らず暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>		
32	<p>14 ○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>入居時にかかりつけ医の継続をすすめると共に、協力医療機関の説明も行い希望に応じている。診察時には、必要な情報を口頭又は書面で伝える他、受診先に同行して診断やアドバイスを得ている。</p>	<p>かかりつけ医の継続と協力医との連携が図られています。受診は家族による同行とされていますが、必要に応じて職員での対応も行われ、情報は家族及び職員間で共有されるよう努められています。</p>	
33	<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>配置看護師や併設事業所の看護師にちょっとした医療面に関して助言を受け、又訪問看護師が定期的に来設し、相談しやすい関係である。</p> <p>かかりつけ医療機関にも定期往診時に限らず、気軽に相談できている。</p>		
34	<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院時には口頭及び書面で情報提供を行っており、入院先へ定期的に訪問し、病棟の看護師に状態を尋ねたり、医師に直接相談し訪問看護の活用も視野に早期退院に努めている。</p>		
35	<p>15 ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入居段階で医療受診確認書にて緊急時の希望を聴取して把握している。重度化・終末期については契約時や実際そのような事例が起きた時等に触れ、法人内の別事業や協力医療機関、地域の診療所等を活用して継続的な支援が可能であることを説明している。</p>	<p>入居時に重度化や緊急時についての意向が把握され、法人内の看取りの研修への参加により知識向上にも努められています。運営推進会議でも看取りに関する説明が行われています。</p>	

36	<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>研修計画に組み込んでおり、伝達講習を行い全職員が身につけるようにしている。又、実際の事例を通して対応を振り返り、検証してスキルアップに繋げている。新人研修では、消防隊員による緊急時対応の単元が組み込まれている。</p>		
37	<p>16 ○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年2回の防災訓練を行い、地域住民にも参加して頂き協力体制をとっている。又、スタッフ会議では災害を想定してイメージトレーニングを定期的に行っている。地震、風水害、火災と災害別にマニュアルを作成中である。</p>	<p>ホームが非難場所となっており、地域の人々の協力を得て防災訓練が行われています。地域の消防団との交流を持つという働きかけも見られます。</p>	<p>実際に利用者と一緒に緊急時の非難経路を確認するなど、訓練内容の更なる充実を図り、より一層の防災対策につなげられることを期待します。</p>
<p>IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p>				
38	<p>17 ○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保</p> <p>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>居室入室時にはノックや声かけを行い、排泄時に失禁時には自尊心や羞恥心に配慮し、さり気ない対応に努めている。同じ話の繰り返しや作話であっても、その都度耳を傾け一人ひとりの思いを受け止めるよう対応している。</p>	<p>羞恥心が伴う排泄や入浴時には、さりげない声かけや、同姓介助など、利用者一人ひとりに応じた支援に取り組まれています。</p>	
39	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	<p>一人ひとりの理解力に合わせ、ストレートに尋ねたり、選択肢をしばって尋ねたりして、自分の意思を表せるようにしている。言いにくいような内容でもこちらが先にその意見を言うことで、同調し言いやすいように働きかける等心掛けている。</p>		
40	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>起床は普段のタイミングで声かけするものの、その日の意思に添い対応している。日課の体操等も気分が向くよう誘いかけが無理強いせず、又外出や外食の希望にも業務予定を臨機応変に変更して対応するよう努めている。</p>		
41	<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している</p>	<p>入浴の着替えはできるだけ一緒に用意し、本人自身が選択できるような手助けをしている。訪問サービスで散髪される場合であっても、美容師に希望が伝えられるよう手助けしている。</p>		

42	18	<p>○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>一人ひとりの能力に合わせ、味見や下ごしらえから買い物、調理まで一緒に行い、力を発揮していただけるよう取り組んでいる。日常会話や会を通して食べたい物やイベントの献立を相談している。</p>	<p>利用者個々の能力にあわせて職員と協働しながら食事を楽しませています。選択メニューの機会もあり、その日の健康状態にあわせて献立の変更などにも対応されています。</p>	
43		<p>○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>摂取量を把握し、水分においては摂取量に心配のある方を個別に把握している。習慣に合わせた時間の食事や食欲低下の方には好物を用意したり、飲み物も選択できる等、一人ひとりに応じた対応をしている。</p>		
44		<p>○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>自分でできるよう手助けし、磨き残し等不十分な部分に介助を加えている。基本的に自立している方でも、時々口腔内を観察し変化がないか確認し、必要に応じて歯科受診に繋げている。</p>		
45	19	<p>○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている</p>	<p>尿意・便意があれば、待たせずすぐにトイレへ誘導したり、時間をみて誘導する等して、失敗が軽減するよう手助けしている。居室にトイレを完備し手すりも前・横に設置している為、立ち上がりやすい等自立に繋がっている。</p>	<p>利用者一人ひとりの睡眠の状況や排泄パターンを把握してケアが行われています。衣服の汚れなどが見受けられた場合には、自尊心を傷つけない方法を職員間で検討しながら対応されています。</p>	
46		<p>○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>毎日、乳製品を摂取できるようにし、食物繊維の多い食材を取り入れた献立に努めている。又、歩行運動やお腹マッサージで蠕動運動を促したり、食後のトイレを眺めに座って頂く等個別に対応している。場合によって、医師へ相談し緩下剤の調整を行っている。</p>		
47	20	<p>○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>毎日入浴や基本的に好まない人もおり、それぞれの好みに添うよう努めている。又入浴を嫌がる人には、声掛けの内容や入浴までの運び方を工夫し、最終的に同意を得て実施している。</p>	<p>ゆったりと入浴してもらえることを前提に、入浴の時間や曜日などは、利用者の要望等を考慮した上で支援されています。</p>	

48	<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安心 して気持ちよく眠れるよう支援して いる</p>	<p>夜間の睡眠状態によっ て、起床を遅らせたり、 日中の活動によっても適 当に休息できるよう状態 を見極めて対応してい る。又、夜寝つけない方 には暫く話をしたり飲み 物を勧める等して、リ ラックスし安眠できるよ うに対応を工夫してい る。</p>		
49	<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目 的や副作用、用法や用量について理 解しており、服薬の支援と症状の変 化の確認に努めている</p>	<p>個別に薬の説明書を保管 し、いつでも確認でき るようにしている。新た な処方や変更等があれば、 記録の他申し送りを行 い、症状の変化や出現を 注意深く観察している。 服薬時には名前や日付の 照合、飲みこぼしがない か等服薬ミスのないよ うに注意して支援してい る。</p>		
50	<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過 せるように、一人ひとりの生活歴や 力を活かした役割、嗜好品、楽しみ ごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>食事の準備や片付 け、計算問題やお話 い等、それぞれが得 意な分野で力を発揮 できる場面があり、 月1回以上は楽しみ 事として外出やイベ ントを開催し気分転 換を図っている。</p>		
51	<p>21 ○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそっ て、戸外に出かけられるよう支援に 努めている。また、普段は行けない ような場所でも、本人の希望を把握 し、家族や地域の人々と協力しなが ら出かけられるように支援している</p>	<p>外食や買い物、ハガ キ投函等突発的な要 望にも業務を変更し て対応している。また、 季節折々の花見物 や観光地等希望の あった所へ外出でき るよう、担当を決め て企画をたて実現し ている。</p>	<p>「だんごの会」での要 望などについては、 担当を定めた上で 企画され、実現に結 び付けられています。 日用品の買い物 や突発的な要望に 対しても前向きに対 応されています。</p>	
52	<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの 大切さを理解しており、一人ひとり の希望や力に応じて、お金を所持し たり使えるように支援している</p>	<p>現金を預かり外出先 での支払いが自身で できるよう手助けし ている。自己管理し ている方もおり、職 員へ心遣いで現金を 渡される為、受け取 ることで社会性を保 ち、現金は一時預か り家族へ返金する仕 組みをとっている。</p>		
53	<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話 をしたり、手紙のやり取りができる ように支援をしている</p>	<p>電話の取次ぎや携帯 電話を所持している 方の通話の手助けを 行い、遠方のご家族 とハガキのやりとり が継続できるよう、 ハガキの購入から投 函まで手助けしてい る。</p>		

54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	照明の明るさやテレビ・音楽の音量、室温等、心地よく過ごせるようその時々調整している。 季節に応じた装飾やベランダでは野菜や花を育て、共に成長を喜ぶ等、適度な変化を楽しんでいる。	明るいピングには季節の生花が飾られ、ベランダには野菜が植えられており、成長した野菜を職員と利用者が一緒に食べ、共に喜びを分かち合う機会につなげられています。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室・食堂の他、ソファとテーブルをおいて一つの空間を作り、またベランダにも椅子をおいてちょっと腰をおろして息抜きしたり自由に過ごせるように工夫している。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には、馴染の物を持参していただくよう勧め、家具や仏壇の他、寝具や写真なども持ち込まれている。	入居時には、居室のクロスの色柄が選べるなど、その人らしい部屋作りへの配慮が感じられます。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	階段は一段の高さが低めで上り下りがしやすく、居室トイレは立ち上がりや姿勢保持がしやすいような広さ手すりの設置となっており、できることが発揮できるよう工夫している。又、居室には表札を付け、自分の居室が認識できるようにしている。		

V アウトカム項目

58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
59	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)		1, 毎日ある
		○	2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

62	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目：51)		1, ほぼ全ての利用者が
		○	2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：32, 33)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：30)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 21)		1, ほぼ全ての家族と
		○	2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 21)		1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
		○	3, たまに
			4, ほとんどない
67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1, 大いに増えている
		○	2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
68	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1, ほぼ全ての職員が
		○	2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての利用者が
		○	2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての家族等が
		○	2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない